



第二十二次

岩村田宿

～天下の貧乏藩～

東京都中央区
日本橋から 167.9 キロ
京都まで 364.3 キロ

岩村田宿

今も栄える商店街

岩村田宿は内藤氏一万五千石の城下町であった。しかし旅人は城下町の堅苦しさを嫌い、通りすぎるのがほとんどだったため、旅籠はすくなかったという。我々もこの町には苦勞させられた。泊まる予定だった神社が2坪ぐらいしかなく、やむなくほかの宿営地を探すことになり、我々もこの宿場を足早に通りすぎることとなった。

岩村田はこの地方の経済の中心として栄えていたといい、今でも賑わう商店街が特徴的だ。そして昔ながらの伝統もちゃんと引き継いでいて、祇園祭などおおくの行事を今も行っている。

佐久鯉の産地

上記のように町人文化はおおいに栄えていたが、この藩は天下の貧乏藩としても名高かった。町人は豊かでも殿様は寒貧であったのだ。

今も商店街にはここ岩村田の名産の佐久鯉の店が多くあったが（食べたかった・・・）その発祥は藩の財政の建て直しに協力した並木七左衛門という豪農の人物が、藩主から札に淀川産の鯉ももらって、育てたことから始まったということらしい。

その鯉は、千曲川の水によくあい、その名も高い佐久鯉になったという。

！うまいもの情報！

「浪花屋」

たいやき：120円

一見普通の鯛焼き屋だが、なんかの有名な「泳げたいやきくん」のモデルになったというのだ！とても泳ぎだしそうにはみえないが、味はまあまあだった。たいやきは三鷹・たいやきたかねでどうぞ！（CM）



「岩村田宿」前後の歩みの記録

3/28 15:45 小田井宿

}

17:25 岩村田宿

}

18:00 若宮神社着

}

(宿営)

3/29 5:50 出発

}

6:30 塩名田宿